

令和6年度 府中市立府中第五中学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・小学校で学習した漢字を正しく書くことができない。 ・初見の文章を読み、その文章に対しての自分の感想を文章で表現することができない。 ・時間内で指定の字数で作文を書くことができない。	・定期的な小テストの実施、200 字作文の中で既習の漢字を使うことを指導する。 ・お互いの意見文を読み合ったり、意見を交換したりする中で、自分の考えの幅を広げる。 ・各学期に2回以上作文を書く時間を設ける。		
数学	・基本的な計算力は身に付いている生徒もいるが、不足している生徒もいる。特に小数や分数の計算についての計算力が不足している。 ・割合や速さの問題を苦手とする生徒が多い。	・基本的な計算はもちろん、発展的な計算問題にも十分に取り組ませる。タブレットを利用して、復習させることで繰り返し学習をさせ、個々の計算力向上につなげていく。 ・周囲の生徒と教え合いや考えを共有する時間を設ける。		
理科	・実験観察において事故の無いようにする。 ・C評価にあたる生徒の指導。暗記や計算で追いついていない生徒がいる。	・実験観察における器具の使い方や安全面についての基本を徹底して行う。 ・ラインズeライブラリを使用したり、小テストを作成して取り組ませたり、レベルにあった授業展開をする。また教え合いの授業を取り入れる。		
社会	・学習習慣が身に付いていない生徒が多く、そのため、社会的事象の理解力が足りない。現在世の中で起きていることを授業中に紹介しながら、教科教育につなげていく必要がある。	・授業中になるべく全員に考えさせ発言させる機会を与える。 ・小单元ごとに小テストを行い、基礎的な知識の定着と振り返りを常態化していく。		
音楽	・歌唱活動における全体やパートの練習時に、個の課題や到達状況が見えにくくなってしまう。 ・基礎的な知識の定着が図れていない生徒や定期考査に向けての学習が困難な生徒がいる。	・個の課題や到達状況が分かるように、振り返りをしたり、ワークシートを記入したりする場面を設ける。 ・活動の中で繰り返し触れることで基礎的な知識の定着を図る。また、eライブラリを利用し復習させる。		
美術	・絵の具に苦手意識を感じる生徒が多い。 ・自分の心に思い描いたことを形や色彩の効果を考えながら表現することを苦手とする生徒も見られる。 ・鑑賞では対話を通して作者の意図や工夫を読み取ろうとする生徒が多い。一方で、見方が浅くなる生徒も見られる。	・教師が手本を示し、個に応じた指導を充実させ、苦手意識を払拭していく。 ・美術が形と色彩を通して他者に自分の考えを伝えるコミュニケーションの1つであることを常に意識させ、制作に取り組ませる。 ・対話型鑑賞を継続して行うと同時に作者の表現意図や工夫を読み取るヒントとなる発問を行い、個別指導を充実させる。		
技術	・定期考査の結果から、木材の性質を十分に理解していない生徒が見られた。 ・実習では、木材の切断加工で、両刃のこぎりの使い分けができていなかった。	・授業資料の見直しを行い、ICT を活用した分かりやすい資料の作成を行う。 ・一人一人の状況に合わせて、個別に道具の使い方を指導する。		
家庭	・自分の身近な生活や社会とのつながりを考え、実践課題を見つけていこうとする意欲が弱い生徒がいる。 ・学んだことを実生活にどう生かすか、具体的に想像して表現することが苦手である。	・サステナブルファッションなど社会の動きに対応した教材を具体的に提示し、自分に関わることを実感させる工夫をする。 ・ICT を活用して、多くの具体的な事例などを紹介し、情報や考え方を共有する工夫をする。		
保健体育	・入学してからしばらくの間は集団行動の必要性を理解できず、基本的な行動の仕方を身に付けるのに多くの時間がかかりすぎる生徒が少なかった。 ・保健体育の授業で身につけたことを実際の生活に生かすイメージがつかめていない。	・まずは基本的な行動の仕方を徹底的にできるまで根強く身に付けられるように繰り返し指導する。 ・学習カード等の活用を通して、将来の自分自身をイメージさせ関連付けられるコメントを返す機会を増やす。		
外国語	・簡単な定型表現などを使った対話はできるが、正しく単語の綴りを書けない。 ・be 動詞・一般動詞の理解が不十分な生徒が多い。 ・入学当初から英語に苦手意識を抱えている生徒が多い。	・帯活動での対話練習を通して、オーラルでの be 動詞・一般動詞の活用を繰り返し、定着を図る。 ・ワークや e ライブラリーなどで演習を繰り返し、定着と向上を目指す。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立府中第五中学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・新出漢字テストでの正答率が高いが、実用的文章において、小学校の既習漢字も含め、正しく書くことができない生徒が多い。 ・語彙が少ないことで、場面の状況を捉えられず、根拠のない読解になっている生徒が見られる。 ・文の成分は理解しているが、実用的な文章を書く際に、習得した知識技能を十分に活用できていない生徒が見られる。	・新出漢字だけではなく既習漢字のテストも定期的に行い、授業内で漢字を書く機会を増やす。 ・場面を具体的に想像できるように、タブレットを活用して分からない言葉を調べ、情景を視覚的に捉えるための時間を設ける。 ・短文作成を行うことで文法の基本を振り返り、長文でも正しい構文で文章が書けるように指導していく。		
数学	・基礎的な四則の計算や文字を含む計算が苦手な生徒が1割ほど存在すること。 ・基本的な計算はできるが、文章問題や説明問題に苦手意識をもつ生徒が少なくないこと。 ・生徒間の計算問題の練習量の差が大きいと、解く速さや正確さにも差がでていること。	・計算の順序や途中式を丁寧に書かせて計算させる。 ・周囲の生徒と考えを共有する時間を作ることで、自分の考えを数学的に表現する力を身に付けられるようにする。 ・授業の進捗や生徒の習熟状況に応じて、e ライブラリ等を活用した復習を行う。		
理科	・全体的に理科に対する関心は高く、理科が将来に役立つと思っている生徒も多い。 ・ほとんどの生徒は授業では観察・実験を積極的に行っている。レポートでは結果までは書けるが考察を書くことができない生徒が比較的多い。 ・知識を問う問題の正答率が高いが、理解を深めているかを問う応用問題については、正答率が低い生徒が多い。	・授業で実施する練習問題や小テストを確実に復習させるようにする。 ・必要に応じて再テストも行い、ICT 機器を活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。 ・実験を行って出た結果からどのような考察が考えられるかをていねいに説明することで、考察とはこういったものかということを理解させる。		
社会	・基礎的な知識・技能を身に付けることができても、それが一時的で定着していない生徒が見られる。 ・社会的事象についての考え等を述べる際に、習得した知識・技能を十分に活用できていない生徒が見られる。	・それぞれの生徒の習熟状況に応じた復習を、e ライブラリ等を活用して行うよう促していく。 ・習得した知識・技能を活用して社会的事象について考える力を向上させるために、思考ツールを活用して社会的事象について考えさせる時間を設ける。		
音楽	・歌唱活動における全体やパートの練習時に、個の課題や到達状況が見えにくくなってしまふ。 ・音楽を形作っている要素やそれらの働きを表す用語や記号の理解ができていない生徒がいる。	・個の課題や到達状況が分かるように、振り返りをしたり、ワークシートを記入したりする場面を設ける。 ・要素や用語、記号などについて音楽活動や教え合いなどを通して理解できるようにする。また、e ライブラリ等を利用し復習させる		
美術	・形と色彩の効果を考えながら、表現することを苦手とする生徒も見られる。 ・鑑賞では価値意識を高くもって作品のよさや美しさを味わおうとする生徒がいる一方で、見方が浅くなり、根拠が弱い生徒も見られる。	・1 年で学習した色彩の既習事項を振り返らせるとともに、制作時に手本を示し、声掛けをすることで、形と色彩の効果を考えながら制作できるよう指導していく。 ・鑑賞の授業では作品の見方のポイントを示すと共に、ワークシートの添削を行うなど個に応じた指導を充実させる。		
技術	・情報の技術の内容で知識の定着が不十分な生徒が確認できた。 ・プログラミング学習では、操作方法で苦労している生徒が見られた。	・実験的に見せることが難しい範囲ではあるものの、ICT を活用して映像資料等を増やしていく。 ・個人活動をグループワークに変えるなど、互いに協力できる課題を増やしていく。		
家庭	・補修の技能（玉結び・玉どめ・並縫い・返し縫い・ボタン付けなど）の定着に課題がある。 ・学んだことを、自分の生活に結びつけ、自分の考えを深める力が弱い生徒が多い。	・「できた」という達成感や「分かった」と生徒が思える授業づくりの工夫をする。 ・意見交換の方法を工夫し、個人、グループなどの様々な形で実施し、考えを深められるようにする。		
保健体育	・男女共習の機会が増えたこともあり、年度当初は戸惑う場面も見られた。男女でのグループ活動の活発化等が課題である。 ・学習カード等での思考や表現を見取る際、やや男女差が見られる。	・グループ活動の機会を増やし、話し合い活動では積極的に男女を超えたアドバイスをしあうよう働きかける。 ・男子の表現が稚拙なことが少なくないため、互いに記入の方法をアドバイスさせるなどの機会を増やしていく。また、模範的内容を示す機会を増やす。		
外国語	・授業中は諸活動に積極的に取り組もうとしているが家庭学習等での練習が不足している生徒が多く見られる。 ・語彙、表現、文法等は何となく理解しているが、実際のコミュニケーションでは十分には活用できていない。 ・様々な状況や場面でも意欲的にコミュニケーションを取れる基礎力を付ける必要がある。	・課題等を通して、授業外で英語に触れる機会を増やし、知識・技能の活用を促し能力向上を図る。 ・特に読む、書く面でのコミュニケーション活動での活用を通してさらに理解を深めさせる。 ・コミュニケーション活動にバリエーションをもたせ実践的な力を伸ばす。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立府中第五中学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・漢字の課題はきちんと取り組むが、実用的な文章の中で正しく書くことができていない。 ・既習の文法事項を忘れていて、定着度がやや低い。 ・応用問題等の初見の文章の読解力がやや劣る。	・文章を書く時に相互チェックをし、誤字脱字を添削させる。 ・文法の小テストを行い、復習の機会を設ける。 ・副教材のドリル等を使用し、さまざまなジャンルの文章で演習させる。		
数学	基本的な計算力は身に付いている生徒が多い、一部生徒は分数や少数などの複雑な計算に対し苦手意識をもっている。 思考・判断の観点から評価の生徒が6割を超えており、応用問題への取り組みに課題が残る。	多くの計算問題を解くことで速く確実に計算する力を身に付ける。 繰り返し多くの問題に触れることで、応用問題に対する苦手意識をなくす。また、数学的な用語、表現を用いて説明したり、人の意見を聞いたりする場面を増やし、多角的な見方と多彩な考え方を養う。		
理科	興味・関心が高く授業への積極性は高い。しかし、既習事項の定着率が十分でない生徒が多い。丁寧に解説を行くことで思い出すことが多く、復習を行う演習が必要であると感じる。 実験等の課題への取り組みは良いが、レポートなどのまとめを行うことは全体的には苦手な生徒が多い。	定期的な復習を行うことが必要である。また、数学と連携して計算力を上げ、演算力を養う。繰り返し問題を解くことは苦でない生徒が多いため、再度同じ問題を解き知識の定着を促す。 模擬試験や入試問題を活用し、応用力を身に付ける。		
社会	・基礎的・基本的な知識を身に付けている生徒は増えてきたが、十分でない生徒もいる。 ・社会的事象に対する思考力・判断力・表現力が十分でない生徒もいる。 ・課題に対して粘り強く取り組もうとする生徒は多いが、学習の調整が十分でない生徒もいる。	・基礎的・基本的な知識を定着させ、理解を深めるための授業内発問や課題を継続的に設定する。 ・社会的な見方や考え方の提示、他者の考えを聞く場面や自分の考えを発表する場面を継続的に設定する。 ・振り返りの時間を設定し、これまでの学習状況と進め方について把握させる場面を継続的に設定する。		
音楽	・歌唱活動における全体やパートの練習時に、個の課題や到達状況が見えにくくなってしまふ。 ・鑑賞活動で、音楽を形作っている要素やそれらの働きと関連付けて聴けていない生徒がいる。	・個の課題や到達状況が分かるように、振り返りをしたり、ワークシートを記入したりする場面を設ける。 ・要素について理解させ、関連付けて聴けている生徒の鑑賞文の紹介や、教え合い活動を行い、曲想とのかかわりを理解して聴けるようにする。		
美術	・主題を生み出すことや表現意図と形や色彩の効果を関連付けて表現することを苦手とする生徒もいる。 ・発想において強調や省略など工夫して画面の構想を練ることを苦手とする生徒が見られる。 ・鑑賞では作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えることを苦手とする生徒もいる。	・主題を生み出せていない生徒には構想カードを使用すると共に、既習事項を確認し、形や色彩などの効果について考えさせる指導を行う。 ・発想のワークシートを使用し、個別の添削を充実することで発想の能力を高めていく。 ・鑑賞活動ではワークシートの記述や発言の内容から、鑑賞が深まっていない生徒には個別にワークシートの添削を行う。		
技術	・エレベーター機構の基本的な内容の理解が十分とは言えない生徒が多く見られた。 ・実習では、エレベーターモデルの製作を行ったが、作業時間が想定よりもかかった。	・知識の定着を図るために、小さな実験を多く行う。 ・作業時間を多く取るために、授業資料を事前にClassroomで配布するなど、タブレットの活用を増やす。		
家庭	・実生活や社会の中にある課題に関心をもっていたり、授業に意欲的に参加している生徒が多いが、自分の意見を発信することに消極的な生徒が多い。	・社会とつながって生きるための課題に気付かせ、仲間の考えも分析しながら、自分の意見をきちんと伝える力を鍛えるための課題を提示する。		
保健体育	・男女共習を本格的に始めた。筋力やスピードの面では男女差が開いてくるところなので、実技に関しては評価を全く同じ条件ではできない。ラジオ体操などのテストでは男女同じように実施して評価することができる。 ・互いの動きを見るために、ICT機器を活用することを増やす必要がある。	・思考・判断を表現するためのレポートでは、観点、各ポイントを具体的に指導する。 ・タブレットで撮影することが日常となるようにする。 ・グループ学習では教え合う場面を増やし、基礎的な動きを習得する時に生かすようにする。試合などでは、習熟具合を考慮するようにする。		
外国語	・なじみのないテーマの文章読解や英作文やスピーチなどの表現活動に苦手意識をもつ生徒が多い。 ・決められたテーマについて自分の言葉で考えをまとめ、発表するスピーキング、ライティング活動を苦手とする生徒が多い。 ・自分からコミュニケーションをとることを避ける生徒を一人でも減らすことが課題である。	・毎週単語テストを実施して、基礎力を向上させる。また様々なテーマの読解問題を演習しながら文章の概要を理解することができるよう指導する。 ・ALTとの英会話や英作文を読んでもらう機会を多く確保し、表現力を向上させることができるよう指導する。 ・毎授業の帯活動で、テーマを設定した英会話を様々な相手と行い、英語を使って積極的にコミュニケーションを図れるよう促す。また様々な方法でALTと英会話をする機会を多く設定する。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。